

岡山県新見市方言

友定 賢治

項目		基本情報
話者 情報	生年	1948年
	生育地	岡山県新見市
	性別	男
	補足情報	新見市に18歳まで居住。その後は岡山県外。
解説	概要	岡山県方言は、南部の備前方言、北東部の美作方言、北西部の備中方言の3つに大別できる。新見市は備中北部方言に属する。「イカレー（行きなさい）」の命令表現がないことで備前方言と、連母音が「アカエー[akæ:]」で、「アケー[ake:]」の備前方言、融合しない美作方言と対立する。ただ若い世代では備前方言と同じ「アケー」になっている。
	表記	ai連母音が[æ:]となり「書いた」は[kæ:ta]で、「カエータ」と表記した。
	文法概説	<ul style="list-style-type: none"> ・ 断定辞は「ジャ」 ・ 「に・へ・を」格、係助詞「は」は、前接名詞と融合し、「トモダチー（友達に）」、「テガミュー（手紙を）」、「ヨラー（夜は）」のようになる。 ・ 過去の打消しは、「～ナンダ」が中心だったが、「～ンカッタ」に変わりつつある。 ・ 禁止は、五段活用は「アルクナ（歩くな）」だが、一段動詞は「ネナ（寝るな）」「ミナ（見るな）」となる。 ・ 使役は、「イカス（行かせる）、ノマス（飲ませる）」、 ・ 能力可能の「ヨー～スル」が減り、能力・状況とも可能動詞が多くなっている。 ・ 推量に、「アロー（あるだろう）」、「ヤスカロー（安いだろう）」がある。 ・ 条件「見なければ」は、「ミニヤー」、「ミンダラ」、「ミンカッタラ」の3つがある。 ・ 引用の「ト」はなく、いわゆる「ト抜け」である。 ・ アスペクトでは、「ヨル（進行）、トル（結果存続）」の対立があったが、「ヨル」の使用が少なくなり、「トル」で両方を言うことが多くなっている。

〔基本例文50〕 岡山県新見市方言訳

	方言訳1 (もっともよく使う表現)	方言訳2 (使うこともある表現)	備考・コメント
1	イマカラ トモダチー テガミュー カク。		
2	フデデ テガミュー カク モンモ オル。		
3	イエー モドッテ スグニ テガミュー カエータ。	イエー モドッテカラ スグニ テガミュー カエータ。	「カエー」は [kæ:]
4	カエータ テガミュー ナンベンモ ヨミカエース。		
5	ヨラー ジュージン ナツタラ サツサトネー。		やや違和感のある文。「ヨラー ジュージナーネー (夜は10時には寝ろ)」などだと自然。
6	アブナーケー シャドー アルクナ。	アブナーケー シャドーオ アルクナ。	
7	コノ ホンワ タローエ ヤロー。	コノ ホンワ タローエー ヤロー。 コノ ホンワ タローニ ヤロー。	
8	ヒルカラ アメガ フローナー。	ヒルカラ アメガ フルジャロー。	
9	ハルン ナリヤー ハナガ サク。		
10	ハナコガ マドー アケタラ ムシガハエーテ キタ。		
11	アサー アンマリ テレビュー ミン。		
12	ハナカー ソガエーナ バングミヤコー ミヤーヘン。	ハナカー ソガエーナ バングミヤコー ミヤーシェン。	使用頻度にはっきりした違いはない。
13	ハナカー キニヨー テレビュー ミナダ。	ハナカー キニヨー テレビュー ミンカッタ。	「見んカッタ」は新しい言いかた。
14	ハナカー テレビュー ミント ホンバーヨミヨール。	ハナカー テレビュー ミンコーニホンバー ヨミヨール。 ハナカー テレビュー ミット ホンバー ヨンドル。	進行も「～トル」で言うことが増えている
15	テレビュー ミナダラ コノ シゴターキョージュエニ スンダジャロー。	テレビュー ミニヤー コノ シゴター キョージュエニ スンダロー。 テレビュー ミンカッタラ コノ シゴター キョージュエニ スンダロー。	使用頻度にはっきりした違いはない。
16	ネツー ダエータケー クスリユー ノマシタ。	ネツー ダエータケー クスリユー ノマエータ。	
17	オカーサンガ イモートー ツカエーニイカシタ。		
18	オトートト ケンカー シテ ワシダケオトーサンニ オコラレタ。	オトトト ケンカー シテ ワシダケオトーサンニ オコラレタ。	
19	ルスー シトル ウチニ ドロボーエハエーラレタ。	ルスー シトル アエーダニ ドロボーニ ハエーラレタ。	使用頻度にはっきりした違いはない。

20	コノ カー マダ コマエーケード ムズカシー カンジガ カケル。	コノ カー マダ コマエーケード ムズカシー カンジュー ヨー カク。 コノ カー マダ コマエーケード ウズナイー カンジガ カケレル。	可能動詞で言うことが増えている
21	キョーワ ジカンガ アルケー ユックリテガミガ カケル。	キョーワ ジカンガ アルケー ユックリテガミガ カケレル。	
22	コノ カー マダ コマエーケー ヒラガナシカー ヨー カカン。	コノ カー マダ コマエーケー ヒラガナシカー カケン。 コノ カー マダ コマエーケー ヒラガナハカー カケレン。	能力可能の否定は「ヨー〜ン」で言うことが多い
23	ツクエガ ナエーケー ジガ チャントカケン。	ツクエガ ナエーケー ジガ チャントカケレン。	
24	タローワ イマ トナリノ ヘヤデ ホンヨミヨール。	タローワ イマ トナリノ ヘヤデホン ヨンドル。	進行も「〜トル」で言うことが増えている
25	タローワ ハナケー カッタ ホンオモー シマエーマデ ヨンドル。		
26	モチート シズカナ トコデ ネタエー。		
27	ユーヤケデ ソラガ アカエー。		
28	コドモノ コラー ヒトリデ ベンジェーイクンガ デーリヤー キョートカッタ。		
29	ウドンヤ ソバナラ ヤスカロー。	ウドンヤ ソバナラ ヤシージャロー。	
30	フルホンヤエー ホン タコー コーデモロータ。		
31	デンキガ ワルーテ ダーレモ コン。	デンキガ ワルーテ ダエーモ コン。 デンキガ ワルーテ ダレンモ コン。	
32	モチート ヤスケリヤー カエタノニ。	モチート ヤスカッタラ カエタノニ。	
33	ヒトリデ アソビー イッテモ タノシュー ナエー。		
34	デンキシャー ヨー ナリヤー デカケレル。		
35	タローワ マダ チューガクセージャ。		
36	コドモン トキヤー センエンデモタエーキンジャッタ。		
37	ケーワ ドロボーノ アシアトジャロー。	ケーワ ヌストノ アシアトジャロー。	
38	シェーワ ワシノ カサデ アリヤー センセーノ カサジャ。		「それは」は「シエ[se]ーワ」と発音するが、「先生」は「セ[se]ンセー」である。
39	モシ アシタ エー テンキナラ コドモラー ツレテ ドッカ イコー。	モシ アシタ エー テンキジャッタラ コドモラー ツレテ ドコズイコー。	

40	コノ カサト クツアー ワシンジャー ナー。		「クツアー (靴は)」は[kutsa:]
41	A: アシタモ コケー クルンカ。 B: ウン コー オモヨールンデ。	A: アシタモ コケー クルンカ。 B: ウン コー オモートルンデ。	
42	A: ナンデ コンノン。クル ヨータロー ガ。 B: スマン。チョット イタシン ジャ。	A: ナンデ コンノン。クル ヨータ ガナ。 B: スマン。チョット イタシン ジャ。 A: ナンデ コンノン。クル ヨータ ンジャー ナエンカ。 B: スマン。チョット イタシン ジャ。	
43	A: アッケー オルナー タロージャロー カ。 B: インヤ タロージャー ノーテ ジ ロージャー ナエーカヤ。	A: アッケー オルナー タローカ ノー。 B: インヤ タロージャー ノーテ ジロージャー ナエーカヤ。	
44	A: デーガ オマエーノ カサナラ。 B: ケーガ ワシノ カサジャ。		
45	A: コノ ホン ヨムンナラ カシチャ ルデ。 B: ソノ ホンナラ モー ヨンデ シ モータ。	A: コノ ホン ヨミヤー カシチャ ルデ。 B: ソノ ホンナラ モー ヨンデ シモータ。	
46	A: トナリー ドロボーガ ハエータゲ ナデ。 B: アリヤー ソーカヤー。 トナ リー ハエータンナラ ウチモ キュー ツケ ニヤー イケンナー。	A: トナリー ドロボーガ ハエータ ゲナデ。 B: アリヤー ソーカヤー。 トナ リー ハエータンナラ ウチモ キュー ツケント イケンノー。	
47	A: アメガ フリソーナケー マドー シ メテーテ クレー。 B: モー シメテ アルデ。	A: アメガ フリソーナケー マドー シメテーテ クレー。 B: モー シメトルデ。	「シメテアル」は自分以外の誰か が閉め、「シメトル」は自分が閉 めたというニュアンスが強い。
48	A: ソバー クイー イコーヤ。 B: ソバター ウドンノ ホーガ エー ノー。	A: ソバー クイー イコーヤ。 B: ソバヨリヤー ウドンノ ホーガ エーノー。	
49	A: イロハシヨテンユー ホンヤガ ド ケー アルカ シランカヤー。 B: シットルデ。ムコーエー カンバン ガ ミエルジャロー。	A: イロハシヨテンユー ホンヤガ ドケー アルカ シランカヤー。 B: シットルデ。ムコーニ カンバン ガ ミエルジャロー。 A: イロハシヨテンユー ホンヤガ ドケー アルカ シランカヤー。 B: シットルデ。ムコーニ カンバン ガ ミヨー。	
50	A: ホンジョーウドンユーノー クータ コトガ アル。		
	B: ウン アリヤー ホンマニ ウマエー ヨノー。		